

『観光科学研究』執筆要領

1. 原稿の基本様式

- ・ 投稿原稿は日本語または英語とする。
- ・ 和文原稿は、A4 用紙を用い、本文は「観光科学研究」編集委員会が提供するテンプレートをダウンロードしたうえで、刷り上がりの形式（横24文字、縦45行の2段組）にあわせて執筆する。
- ・ 英文原稿は、A4 用紙を用い、本文は「観光科学研究」編集委員会が提供するテンプレートをダウンロードしたうえで、刷り上がりの形式にあわせて執筆する。なお、英語を母国語としない投稿者が英語で投稿する場合は、十分な英文推敲を経て提出すること。編集委員会が独自に英文の校正を専門家に依頼した場合は、その実費を投稿者に求める。
- ・ テンプレートのダウンロードは、下記ホームページより行うことができる。

<http://www.ues.tmu.ac.jp/tourism/journal.html>

2. 文章の執筆方法

(1) 文章

- ・ 原稿は、「観光科学研究」編集委員会が提供するテンプレートにあわせて執筆する。数字およびローマ字は半角扱いとする。見出し前後のスペースの取り方は本テンプレートに準拠する。項目ごとのポイント数およびフォントも同じ。
- ・ 簡潔平明な理解しやすいひらがなまじりの口語体とする。章立ては原則として次の例に準拠し、本文中で触れる場合は「II では」、「II の4-1 において」のように言及すること。

章 I. II. III. IV.

項 1.1 1.2 1.3 1.4

目 (1) (2) (3) (4)

(2) 用字、用語

- ・ 文章は、常用漢字と現代かなづかいを用いる。やむをえず常用漢字以外の漢字を用いる場合は、その後ろに括弧付きで読み方を標記すること。また、数字はアラビア数字(数量を表すとき)を用いる。
- ・ 年号は原則として西暦を用いる。元号の表記が必要な場合は、「1972 年 (昭和 47 年) の生まれである」のように、西暦の後ろへ併記する。
- ・ ローマ字、ギリシャ文字、イタリック体文字はその区別を明確にする。
- ・ 本文、図・表とも句読点は、「,」（カンマ）、「。」（ピリオド）に統一する。

(3) 数式

- ・ 数式は重要なものだけを示す。詳細な説明が必要な時には付録に示す。例えば、

(8pt・半行程度のスペース)

$$a \times x + b = c \quad (1)$$

(8pt・半行程度のスペース)

のように記述する（できるだけ Word のオブジェクト中に準備されている数式エディタを用いる）。文章の中に数式が入る時は、誤解のないよう注意して1行で書く。

(4) 図・表

- ・ 図・表の数はできるだけ少なくし、重要でないものは省く。図と表とが同一内容の時には、どちらか一方にする。
- ・ 複写したものは避ける。必要な場合は、掲載前に現著作権者へ転載の許可を取っておくこと。
- ・ 図の目盛線、表の罫線の間隔は、見やすくなるように設定する。
- ・ 図・表は原則として、原稿中に貼付して提出することが望ましい。しかし、オリジナルのまま提出する場合は、A4 用紙を使用して作成する。刷上りの大きさを考慮し、図・表中の文字、記号については縮小後でも判別できる大きさで記入する。なお、不明確な図・表や大きな図・表については、編集委員会から書き直しを求められること

がある。

- ・ 写真をオリジナルのまま提出する場合は台紙に貼り、必要事項を台紙に書く。写真と図は各々統一番号にする。この場合は印刷時に1段または2段組の大きさへ調整されるので、電子化と縮小を施された場合でもじゅうぶん見やすいように心がけること。
- ・ 図や写真は白黒を基本とするが、編集委員会が論文内容の表現上、必要と見なした場合は、カラー図の掲載も許可されることがある。許可されない図表のカラー印刷を希望する場合は、別途実費の支払いを求める。
- ・ 図(写真)・表の表記は以下のように記す。

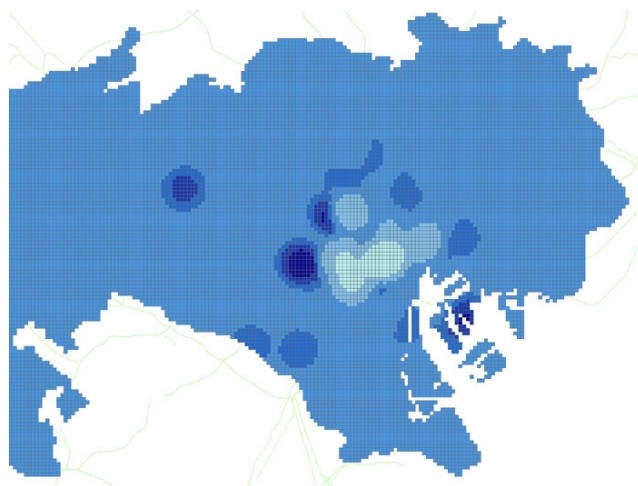


図1 ラスタ演算による日米ツーリズム空間の差分解析結果

図1 ○○○○○

表2 □□□□□

ただし図の場合は下側、表の場合は上側にタイトルを置く。

(5) 摘要

- ・ 800字以内で、内容を端的に要約したアブストラクトを論文の巻頭に添付する。

3. 文献の引用・注記のしかた

- ・ 参考文献は本文の末尾にまとめて記載する。
- ・ 注記を入れる場合は、本文中の引用箇所・該当箇所の右肩に、小括弧を付した注記番号を記入する(例：文献¹⁾を参照)。そして、本文と文献リストの間に、注をまとめて挿入すること。
- ・ 本文中で文献を引用する際は、次のように表記する。

(例1) ブリティッシュコロンビア州における自然公園の保護政策については、Dearden and Rollins (2002) に整理されている。

(例2) Downs は、未就学児童に対する読図および経路探索実験から、子どもの地図化能力は生得的なものではないとの主張を展開した (Downs et al. 1988, p. 123 ; 若林・鈴木 2005, pp. 456-789)。

- ・ 文献目録の記載例

【雑 誌】

(例1) 東京太郎・大阪次郎 1997. 太郎と次郎の将来展望. 観光三郎研究 18(3): 140-144.

(例2) Cornelius, C., Navarrete, S.A. and Marquet, P.A. 2001. Effects of human activity on the structure of coastal marine bird assemblages in Central Chile. *Conservation Biology* 15 (5): 1396-1404.

(単行本)

(例-1) 岡本伸之 2001. 「観光学入門: ポスト・マス・ツーリズムの観光学」. 東京: 有斐閣.

(例-2) Cerny, T.B. 1993. *Renewable Energy*. Island Press.

(注)

1) 著者数が多い場合は、本文中においては‘ほか何名’, ‘et al.’ を付して筆頭者名のみとする。ただし、参

参考文献欄においては、原則として全著者の名前を記載すること。

2) 雑誌名の略記は、各分野において一般的なものをを用いる。

3) 文章を直接引用する場合は、「」でその文章を挟み、最後に引用した頁の始まり頁と終わり頁を明示する「このように記すこと」(pp. 100-111)。直接引用をしない場合は、著者名と出版年のみ記す(観光太郎 1987)。

4) 一般的でない文献については詳しく記入する。

- 参考文献は以下のような書式で記述し、文末に並べる。謝辞を加える場合は、本文が終わったあとに「謝辞」の項目を設け、そこに挿入する。

参考文献

早崎正城 2002. 観光学における史的考察. 長崎国際大学論叢 2: 111-118.

竹内謙彰 1998. 「空間認知の発達, 個人, 性差と環境要因」. 東京: 風間書房.

中村哲. 観光におけるマスメディアの影響. 前田勇(編著) 2007. 「21世紀の観光学: 展望と課題」: 83-100.

Nash, R. 2006. Causal network methodology: tourism research applications. *Annals of Tourism Research* 33(4): 335-349.

Daimon, T., Nishimura, M. and Kawashima, H. 2000. Study of drivers' behavioral characteristics for designing interfaces of in-vehicle navigation systems based on national and regional factors. *Japanese Society of Automotive Engineers Review* 21: 379-384.

Downs, R.M. and Liben, L.S. 1992. Children's understanding of maps. In P. Ellen and C. Thinus-Blanc (eds.) 1987. *Cognitive processes and spatial cognition in animal and man: vol.2 neurophysiology and developmental aspects*. Martinus Nijhoff Publishers: 202-219.

Impacts of Tourism on Marine Wildlife; <http://www.gse.mq.edu.au/Research/mmrq/Tourism.htm>. (アクセス日 2007.5.25)

4. 原稿の受付

- 原稿は、原則として「観光科学研究」編集委員会が提供するテンプレートをダウンロードしたうえで、Word形式でファイルを作成し、提出すること。Word以外の文書ソフトで作成する場合は、併せてテキストファイルの提出を求めることがある。また、ワープロや手書きで投稿する場合は、必ず事前に編集委員会まで問い合わせること。この場合は、ファイルの電子化に必要な経費を求めることがある。
- 原稿は、出力されたオリジナル原稿1部にコピー3部をつけたうえで、指定の期限までに下記あてに提出する。なお、投稿の際は、必ず別紙で投稿原稿の種別を明示すること(論説, 展望, 研究ノート, フォーラム, 書評, 研究発表要旨, その他)。

提出先

〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1

首都大学東京 都市環境学部 自然・文化ツーリズムコース

「観光科学研究」編集委員会 宛

- 文章部分(および、図・表・写真等で電子情報化されている場合はそれらも含む)については、フロッピーディスクあるいはCD-ROMを同封して、電子文章ファイルも提出する。なお、
- ファイル中に図・表等を組み込むと画質が劣化する場合、あるいは組み込めない場合は、オリジナルを郵送すること。
- 受理された原稿は返却しない。ただし、図表などは求めがあれば返却に応じる。

5. 別刷り

- 最終原稿のpdfファイルを執筆者に提供するとともに、希望者には実費にて別刷りを配布する。

6. 付則

- この規定の変更は、「観光科学研究」編集委員会からの提案を受けて、自然・文化ツーリズムコース会議の議を経

ておこなう。

- ・ 其他必要な事項は、「観光科学研究」編集委員会において決定する。
- ・ この規定は、2007年9月3日に制定、施行する。

(付録) 文中のフォント等について

付表1 各項目のポイント数

項目	ポイント数
表題 (和文)	16
表題 (英文)	14
著者名 (和文)	12
著者名 (英文)	9
脚注の著者連絡先	9
章のタイトル	11
アブストラクト	10
本文	10
参考文献	9

なお、表中の文字のポイント数は特に指定しない。

フォントについては、付表2のフォントを使用する。なお、英数字と括弧は原則として半角とするが、章番号だけは全角とする。

付表2 Windows と Macintosh のフォントの対応

	Windows	Macintosh
明朝体	MS 明朝	細明朝体またはMS 明朝
ゴシック体	MS ゴシック	中ゴシック体またはMS ゴシック
Times	Times New Roman	Times
Arial	Arial	Arial
Symbol	Symbol	Symbol